

熊取町埋蔵文化財調査報告第26集

# 熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・X

平成 8 年 3 月

熊取町教育委員会

# 目 次

はしがき

例 言

本文目次

挿図・図版目次

第1章 はじめに .....	1
第2章 地理的・歴史的環境 .....	1
第1節 地理的環境 .....	1
第2節 歴史的環境 .....	2
第3章 調査の概要 .....	4
第1節 東円寺跡の調査 .....	4
1. 95—1区の調査 .....	6
2. 95—3区の調査 .....	7
第2節 降井家屋敷跡の調査 .....	8
1. 95—1区の調査 .....	9
第3節 久保城跡の調査 .....	10
1. 95—3区の調査 .....	11
2. 95—4区の調査 .....	12
3. 95—5区の調査 .....	12
第4章 おわりに .....	13

## 挿 図 目 次

第1図	熊取町の位置	1
第2図	熊取町内遺跡分布図	3
第3図	東円寺跡調査地点位置図	4
第4図	東円寺跡周辺小字名	5
第5図	東円寺跡95—1区調査区位置図	6
第6図	東円寺跡95—1区土層断面図	6
第7図	東円寺跡95—3区調査区位置図	7
第8図	東円寺跡95—3区土層断面図	7
第9図	降井家屋敷跡調査地点位置図	8
第10図	降井家屋敷跡95—1区調査区位置図	9
第11図	降井家屋敷跡95—1区上層断面図	9
第12図	久保城跡調査地点位置図	10
第13図	久保城跡周辺小字名	10
第14図	久保城跡95—3，—4区調査区位置図	11
第15図	久保城跡95—3区平面図・上層断面図	11
第16図	久保城跡95—4区上層断面図	12
第17図	久保城跡95—5区調査区位置図	12
第18図	久保城跡95—5区土層断面図	13

## 図 版 目 次

図版第1	東円寺跡95—1区
図版第2	東円寺跡95—3区
図版第3	降井家屋敷跡95—3区
図版第4	久保城跡95—3区
図版第5	久保城跡95—4区
図版第6	久保城跡95—5区

## は　し　が　き

熊取町には現在38ヶ所の埋蔵文化財の包蔵地が確認されており、弥生時代を中心とした大久保E遺跡、奈良時代から江戸時代の複合遺跡である東円寺跡、また国の重要文化財に指定されている中家住宅、降井家書院、米迎寺本堂など貴重な文化財が存在しています。

一方、近年関西国際空港が開港されるなど急速に開発が進み、本町においても様々な土地開発が年々増加しており、町の景観も大きく変貌しようとしています。

これに伴い埋蔵文化財包蔵地内での開発も増加し、開発工事に先立つ事前の発掘調査も年々増加する一方であります。この様な状勢の中で、本町教育委員会では遺跡の記録・保存を行うために、土地所有者をはじめ関係者各位のご理解とご協力を得て発掘調査等を実施してまいりました。本書は平成7年度中に国庫補助を受けて実施した発掘調査成果を概要報告書としてまとめたものであります。いずれも小規模な調査で、十分な成果を挙げ得たとは言えませんが、熊取町ひいては泉南地域の文化解明のための一資料として広くご活用頂ければ幸いです。

末筆になりましたが、現地での発掘調査にあたってご理解とご協力を頂きました土地所有者ならびに関係者各位に厚くお礼申し上げますとともに、より一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

平成8年3月

熊取町教育委員会  
教育長 七里 弘

## 例　　言

1. 本書は熊取町教育委員会が平成7年度国庫補助事業として計画し、町史編さん室が実施した熊取町遺跡群発掘調査概要報告書である。
2. 調査は熊取町教育委員会町史編さん室前川　淳、永井　仁を担当者として、平成7年4月1日に着手し、平成8年3月31日をもって終了した。
3. 本書は報告書作成の都合上、平成7年4月から12月末までの発掘調査成果を掲載することとした。
4. 本書における図面の標高はT.P.（東京湾平均潮位）を用い、また方位は地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の十色は、小山　正忠・竹原　秀雄編『新版　標準十色帖』第10版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修　1990年版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって下記の調査員・調査補助員の参加を得た。  
桑原　良治、阪口　雅美、関井　澄子、武田　徹、南谷　克実、山本　恵子
7. 本書の執筆・編集は前川　淳の協力のもと永井　仁が行った。

## 第1章 はじめに

平成7年度における文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘調査の届出件数（平成7年12月末日現在）は29件であり、昨年度の同時期（22件）と比較して増加を示している。その内訳は、ガス・上下水道・電気工事等2件、個人住宅建設14件、共同住宅建設1件、公共施設等建設1件、店舗・事務所等建設2件、宅地造成2件、溜め池4件、その他3件となっている。また遺跡別に見てみると、東円寺跡における届出が8件、久保城跡が7件、人久保B遺跡が3件、溜め池が4件、降井家屋敷跡、城ノ下遺跡、池ノ谷遺跡、来迎寺本堂、人久保C遺跡、大浦中世墓地が各々1件という状況となっている。以上のような状況の下で、12月現在までに本町教育委員会では、発掘調査を21件、工事立会を7件、慎重工事1件を実施・指導している。その内訳は、発掘調査については国庫補助対象事業が7件、民間事業が15件、公共事業が7件となっている。

本書では、平成7年度国庫補助事業として実施した東円寺跡2件、降井家屋敷跡1件、久保城跡3件の以上6件の発掘調査について概要を報告する。

## 第2章 地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

熊取町は大阪府泉南地域のほぼ中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両方に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉形を呈している。町域の総面積は約17万平方kmを有する（第1図）。

地形による面積比を見ると、山地が41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては泉南地域の基本山地となる和泉山地が大部分を占めており、北部においては和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている（第2図）。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。

町域に水源をもつ河川は大別して見出川・雨山川・大井出川の3水系が存在している。3河川とも町南部の山間部を水源としていて



第1図 熊取町の位置図

南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を流下して大阪湾に注ぎ込んでいる。いずれの河川も下流部が他市域を流れることに加えて、本町が瀬戸内気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑施設が存在している。特に現在においても町内随所で灌漑用の溜め池を目にすることができる。

## 第2節 歴史的環境

本町の遺跡数は38ヶ所を数えるが、遺跡の範囲・性格など不明確なものが未だ多く存在しているのが現状である（第2図）。

旧石器・縄文時代については、従来より池ノ谷遺跡（4）が旧石器時代の遺物散布地とされているが詳細は不明である。成合寺遺跡（8）からは縄文時代の石鏃・スクレイバー等の石器類が出土している。また、平成5年度の東円寺跡（6）の調査で、縄文時代早期の有舌尖頭器や前期頃の石匙・石鏃が出土しており、近辺に縄文集落の存在を窺わせるものとして注目される。

弥生時代では大久保B遺跡（28）・大久保E遺跡（37）が知られている。住吉川流域の低位段丘上に立地する両遺跡は弥生時代後期から終末期頃を継続期とする遺跡である。大久保E遺跡の調査で、終末期頃に比定されている遺物が大量に投棄された溝が検出されており、今後の周辺地域の調査で当該期の集落が発見される可能性が非常に高いと言える。他に同時代のものとしては、前述した成合寺遺跡・東円寺跡から石器が出土している。

古墳時代については、五門北古墳（12）・五門古墳（13）が古墳であったとされるが現在は消失しており詳細は不明である。他に同時代の遺跡等は発見されておらず、本町においては不明な時代である。

奈良・平安時代については、東円寺跡（6）から8世紀代の掘立柱建物群が検出されている。また、平安時代末期頃には同遺跡の遺跡名でもある「東円寺」が建立されたことが出土瓦より推測されている。

中世では、前述した東円寺跡から13世紀代の掘立柱建物が現在までに10棟以上検出されており、奈良時代以降中世に至るまでの付近一帯に村落・寺社が形成されていたことを窺い知ることができる。成合寺遺跡（8）は14世紀を中心とする中世墓地遺跡であり、600基あまりの土壙墓群や掘立柱建物が検出されている。大浦中世墓地（14）も同じく13世紀から15世紀にかけての中世墓地遺跡であり、近年の発掘調査において当町の在銘五輪塔の中で最も古い享徳4年（1455年）銘の入った五輪塔の地輪が出土している。中世城郭については山城・平城を含めて現在6ヶ所の推定地を挙げているが詳細は不明である。また、5ヶ所ある中世寺院推定地についてもほとんど未調査であり今後の調査に期待がもたれる。建造物では鎌倉時代に建立されたと考えられる重要文化財の来迎寺本堂（3）が当町最古の建造物である。今年度においては、本堂に隣接する庫裏の建て替え工事に伴う発掘調査を実施しておりその成果としては、ピット状造構・畑作造構が検出され遺物としては、15世紀から16世紀代に比定される土師質の皿・碗・甕・擂鉢、陶磁器類が出土している。

近世については、重要文化財の降井家書院（1）・中家住宅（2）といった建造物や中家文書等の中近世資料の調査が早くから進められており、近世熊取の様相が多岐にわたり研究・解明されてきている。埋蔵文化財の側では、中家住宅の調査（94-1区）で、建物跡・埋甕・埋桶などの遺構が検出され、遺物としては17世紀初頭から19世紀代までの多種多様な陶磁器類や瓦などが出土しており、当時の中家の



第2図 熊取引達跡分布図

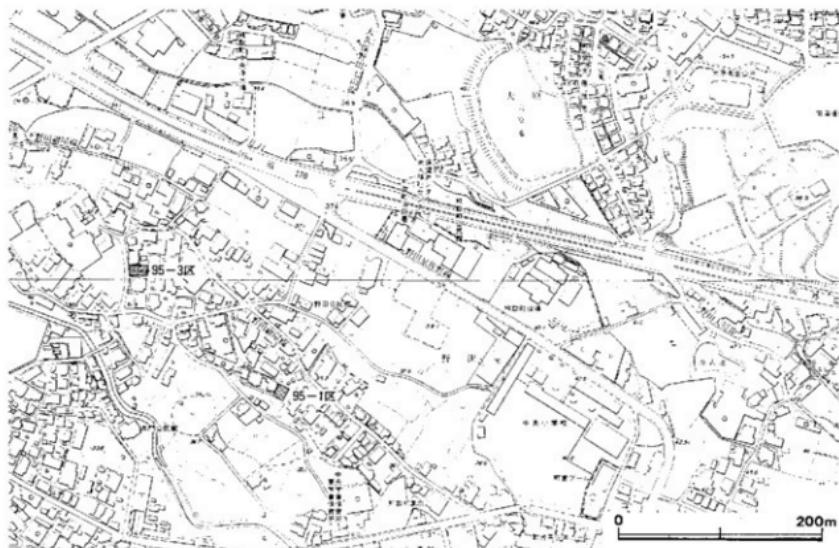
生活ぶりが窺える成果を挙げている。また、降井家屋敷跡（25）の調査では旧来の屋敷地を区画していたと推定される溝を検出している。

#### 参考文献

- ・助大阪文化財センター『成合寺』（1985.3）
- ・熊取町教員委員会『熊取町の歴史』（1986.11）
- ・“『熊取町埋蔵文化財調査報告』第1集（1986.3）～第25集（1996.3）

### 第3章 調査の概要

#### 第1節 東円寺跡の調査



第3図 東円寺跡調査地点位置図

東円寺跡は熊取町の北西部、熊取町大字野田および紺屋に所在し、熊取町役場・公民館の前面域を中心とする付近一帯に広がる寺院・集落遺跡である（第2図）。現在のところ東西約900m・南北約400mの町内最大の遺跡指定範囲を有する。地形的には現在の大井山川（住吉川）の右岸域に形成された低位段丘上に立地している。この段丘面は熊取町役場前面（「東円寺」推定）付近が最も高く、北・西および南各方面に向かって緩やかな傾斜をもつ段丘面を形成している。

遺跡名となっている「東円寺」（廃寺）は、近辺の発掘調査により出土した軒丸・軒平瓦や文献等か

ら平安時代末期

頃に建立された

寺院であると推定されている。

当寺院は、付近の水田に伝えられている「トヨジ」「東永寺」「大門」「堂ノ後」などの小字名から、段丘面の高位置にあたる現在の熊取町役場の正面域に所在していたと考えられているが、中心部の発掘調査が行われていないため伽藍配置等の正確



第4図 東円寺推定位置周辺小字名

な把握は未だなされていない。しかしながら近年の度重なる発掘調査により、寺院跡としての当遺跡の様相よりも寺院建立以前におけるこの他の様相や、建立以後に寺院周辺に成立した13世紀から14世紀にかけての中世村落の様相が徐々にではあるが明らかになりつつある。

現在のところ当遺跡において人間の営みを知ることができる最も古の時代としては縄文時代の早期にまで遡ることができる。平成5年度に行った熊取町立中央小学校内の発掘調査において、縄文時代早期の有舌尖頭器や前期の石匙・石鎌等が出土しており、このことは、当時この付近一帯が縄文人の狩場として存在していた可能性を示唆している。

当地周辺において確実な生活関連の遺構が検出されるようになるのは奈良時代（8世紀）以降である。「東円寺」推定地の西側近接地の発掘調査において、8世紀代に比定される遺物や掘立柱建物群が検出されている。また、東円寺跡でいうところの中世包含層内には広く奈良期の遺物が混入することから見て、少なくとも奈良時代には同地周辺の段丘上位面における土地利用・開発が進み始めていたことを裏付けている。

中世（主に13世紀～14世紀）になると寺院推定地を中心として遺構・遺物の検出量が飛躍的に多くなり、段丘面上の利用・開発は広範囲に行われていたことを知ることができる。とりわけ寺院西側および東南側段丘面付近の開発が著しく、既往の発掘調査において計10棟以上の掘立柱建物を検出している。特に、1988年度に実施した遺跡東端付近の発掘調査において同時期の鍛冶に関する遺構を検出してお

り、遺跡の東方への広がりを示唆している。また、平成5年度の中央小学校の発掘調査では自然地形を利用した中世水田跡が検出されており、当時「東円寺」の東側において水田耕作がなされていたことが判明している。

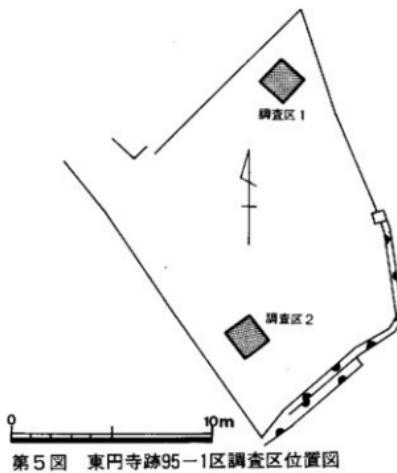
近世における当地周辺は「東円寺」の衰退と共に一律に整地を受け水田化されたことが既往の調査からある程度判明している。「東円寺」の衰退については秀吉の根来寺遠征の際に焼失し衰退したと言えられているが、その是非についての物証的裏付けは現在のところなされてはいない。

### 1. 95-1区の調査

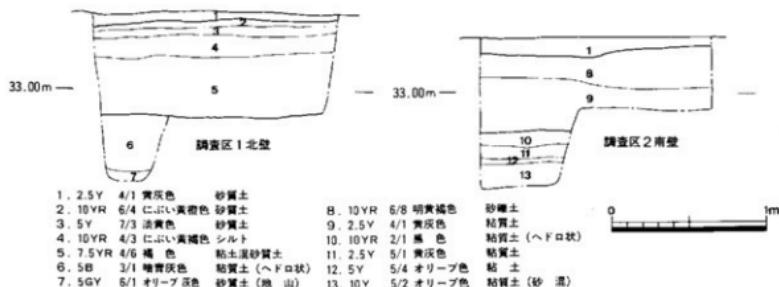
本調査地は東円寺跡範囲内のほぼ中心、熊取町役場の南西約280mの位置に所在する。申請地番は泉南郡熊取町人字野川2382-5番地、申請面積は182m<sup>2</sup>、現状は畠地である。調査は個人の専用住宅の新築工事に伴うもので、工事に先だって申請地の北側に1ヶ所（調査区1・1.5×1.5m）南側に1ヶ所（調査区2・1.5×1.5m）の計2ヶ所の調査区を設定し人力掘削により調査を実施した（第5図）。調査期間は平成7年4月19日から20日までの2日間で実施した。

基本層序はI. 現耕作土、II. 整地層、III. 暗青灰色及び黒色粘質土（ヘドロ状）を呈している。Iは現状の耕作土で層厚はおよそ12cmである。IIは近代における整地に伴う上層であり、褐色系の砂礫土層で層厚はおよそ60cmである。IIIは当調査地点が元来湿地帯であったためヘドロ状の土が堆積したものであり地山としてとらえた。

近代まで湿地帯であった当地を近年耕作地へ変換するために60cm程度の盛土を行ったものであることを確認し現地での調査を完了した。なお、遺構・遺物は一切検出しなかった。



第5図 東円寺跡95-1区調査区位置図



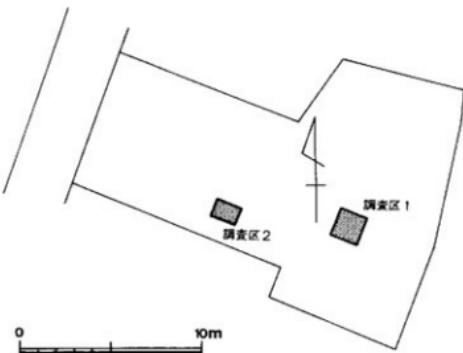
第6図 東円寺跡95-1区土層断面図

## 2. 95-3区の調査

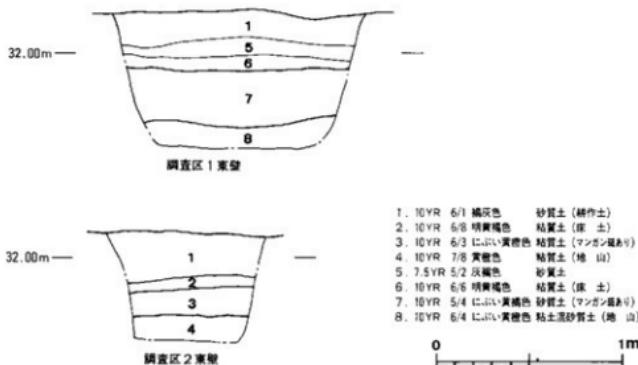
本調査地点は東円寺跡範囲内のはば中心、熊取町役場から西方向約400mの位置に所在する。申請地番は泉南郡熊取町大字野田2155-5番地、申請面積は189.66m<sup>2</sup>、現状は宅地である。調査は個人の専用住宅の建て替え工事に伴うもので、既存の建物の撤去の後工事に先だって申請地の東側に1ヶ所（調査区1・1.5×1.5m）、中央付近に1ヶ所（調査区2・1.5×1.0m）の2ヶ所の調査区を設定し、人力掘削により調査を実施した（第7図）。調査期間は平成7年8月21日から22日までの2日間で実施した。

基本層序はI. 旧耕作土・床土、II. にぶい黄褐色土層、III. 黄橙色土層を呈している。Iは旧来の畑地に作る土層で層厚はおよそ30cmである。IIは自然堆積の無遺物層でマンガン斑を多量に含んでおり、調査区1では砂質土、調査区2では粘質土を呈しており地山として位置付けてよいだろう。層厚は調査区1でおよそ30cm、調査区2でおよそ15cmである。IIIもIIと同様自然堆積の無遺物層である。

以上の状況から近代において耕作地へと変換する際に包含層等が既に削平されたものと推測できる。

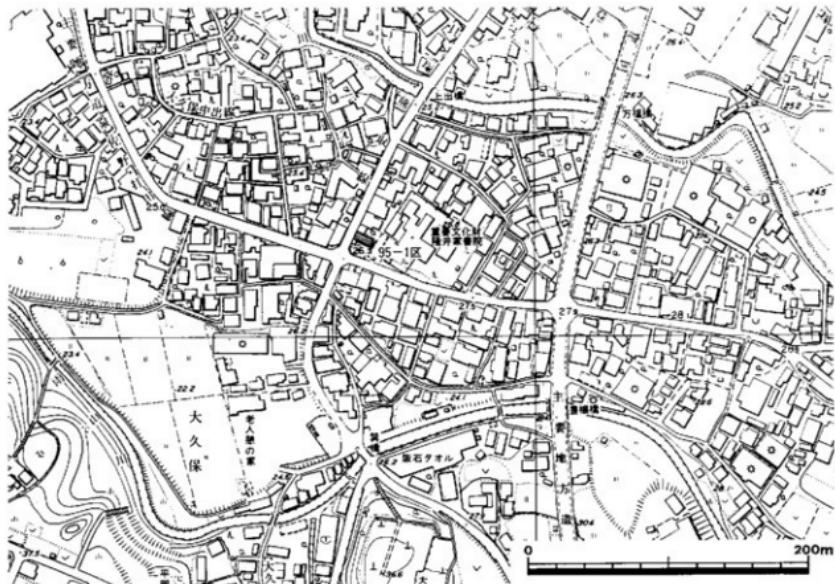


第7図 東円寺跡95-3区調査区位置図



第8図 東円寺跡95-3区土層断面図

## 第2節 降井家屋敷跡の調査



第9図 降井家屋敷跡調査地点位置図

降井家屋敷跡は熊取町の北西部、泉南郡熊取町大字人久保に所在している。地形的には現在の大井出川（住吉川）の右岸域に形成された低位段丘面上に立地している。

降井家は当地方の豪族であったと伝えられ、当家所蔵の天保6年作成の屋敷図によれば、2500余坪の敷地に台所、広間、書院、土蔵、厩等龐大な邸宅を構え、射場、馬場まで備えていた。台所、広間等は縮小したものに建て替えられ、書院は元々広間に接続していた様であるが、広間と切り放されている。その他の建物では後に出来た表門と鎮守を残すのみである。書院は江戸時代初期頃に建立されたものと認められ、その後、柱、縁廻りなど相当大きな修理を受けている。この書院は昭和27年に「降井家書院」として重要文化財に指定されている。

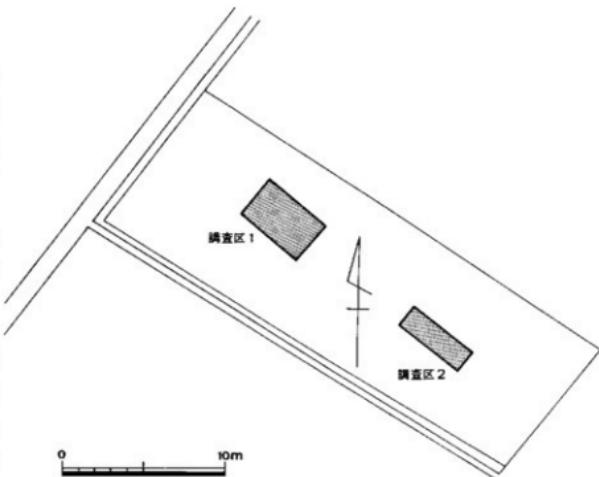
当遺跡内の調査は昭和60年度に初めて発掘調査(85-1区)が行われている。この調査の成果として、屋敷地を区画していたと思われる幅1.4mの溝が検出され、また遺物としては、備前甕、常滑甕、唐津碗、肥前系染付碗、軒丸・平瓦等17世紀を中心とした18世紀後半までのものが出土している。この調査で外郭の構造が明らかになり、出土遺物からこの構造が近世初頭まで溯源することは確実であり、今後調査が進めば土蔵屋敷の成立時期や構造をより具体的に知ることが出来ると思われる。また、降井家から東へ約500mの位置にかつて広大な敷地を構えていた中家が存在するが、両家は各々大久保と五門の集落に位置しており、屋敷地の成立と村落の成立の関連なども興味深い問題である。

### 1. 95-1区の調査

本調査地点は降井家屋敷跡の南西部、熊取町役場から西に約1.2kmに位置し、府道貝塚熊取線に面して立地している。

申請地番は泉南郡熊取町大字大久保1番地、申請面積は168m<sup>2</sup>、現状は宅地である。

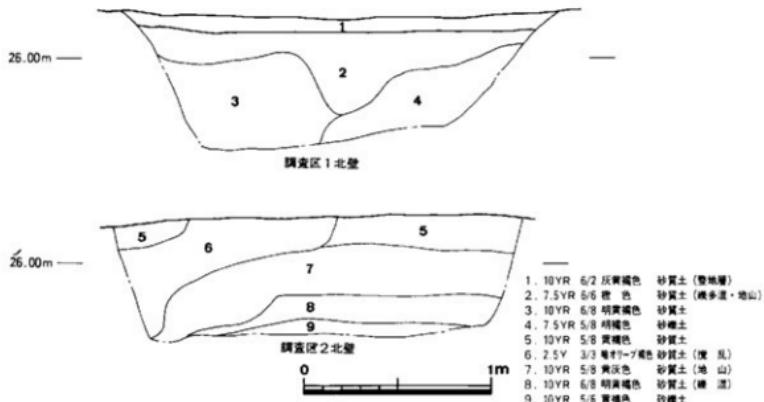
調査は個人の専用住宅の建替え工事に伴うもので、既存の建物の撤去の後申請地の西側に1ヶ所（調査1区・2.2×1.5m）、東側に1ヶ所（調査2区・2.2×0.8m）の計



第10図 降井家屋敷跡95-1区調査区位置図

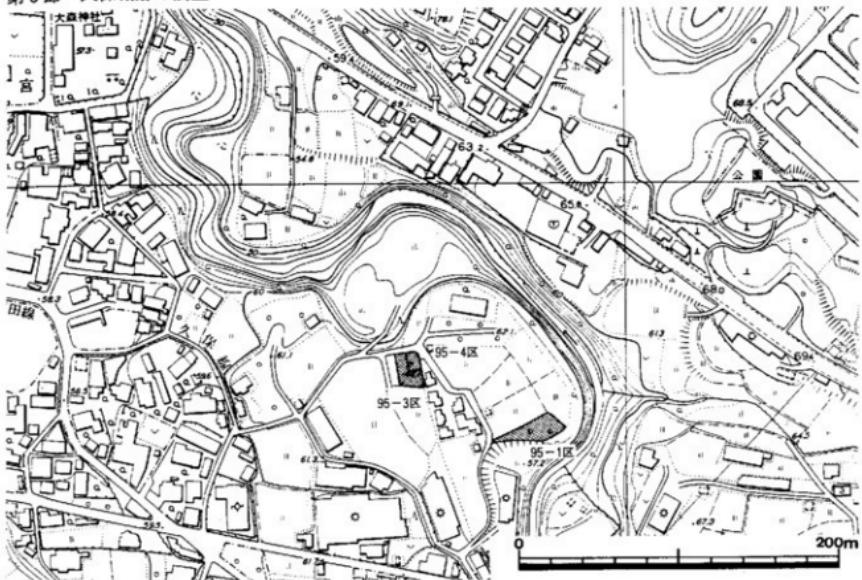
2ヶ所の調査区を設定し、人力掘削により調査を実施した（第10図）。調査期間は平成7年7月28日の1日間である。

基本層序は、調査区1においては地表面から10cmまで近世以降の整地層が僅かであるが検出されたのみで以下は自然堆積の無遺物層で地山と確認した。調査区2では攢乱・盛土の直下に地山を検出した。当時建物を建てる際に削平された状況で遺物・遺構は一切検出されなかった。



第11図 降井家屋敷跡95-1区土層断面図

### 第3節 久保城跡の調査



第12図 久保城跡調査地点位置図

久保城跡は、熊取町の中央やや北東よりに位置し熊取町大字久保に所在する。平安期半ばに編纂されたとする『和泉国々内神名帳』に名の出てくる大森神社の南側一帯に広がる低位段丘面上に位置している。現在、見出川の左岸域一帯を中心、小字名として「矢ノ倉」「的場」「土居ノ内」「中堀」「荒堀」等の名が残っており(第13図)、この地に中世城郭が存在したことを見窺わせている。

しかし考古学的には、今日まで小規模な発掘調査を數か所行っているだけにすぎず、城郭に直接関連する遺構等は未だ検出されていない。



第13図 久保城跡周辺小字名

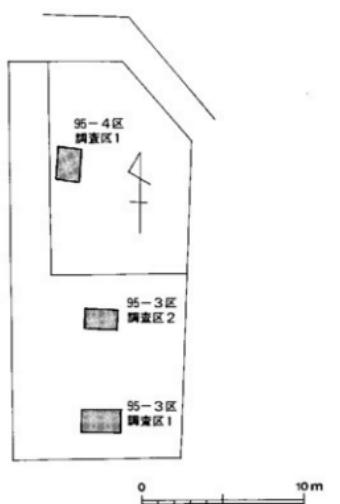
### 1. 95-3区の調査

本調査地は久保城跡のほぼ中央付近、熊取町役場から南東に約1.5kmの位置に所在する。申請地番は泉南郡熊取町大字久保1601-1、-5、-7番地、申請面積は151.77m<sup>2</sup>、現状は畠地である。調査は個人の専用住宅の新築工事に伴うもので、工事に先だって申請地の南側に1ヶ所（調査区1・2.4×1.5m）、北側に1ヶ所（調査区2・2.0×1.2m）の計2ヶ所の調査区を設定し、人力掘削により調査を実施した（第14図）。調査期間は平成7年10月3日から5日までの3日間で実施した。

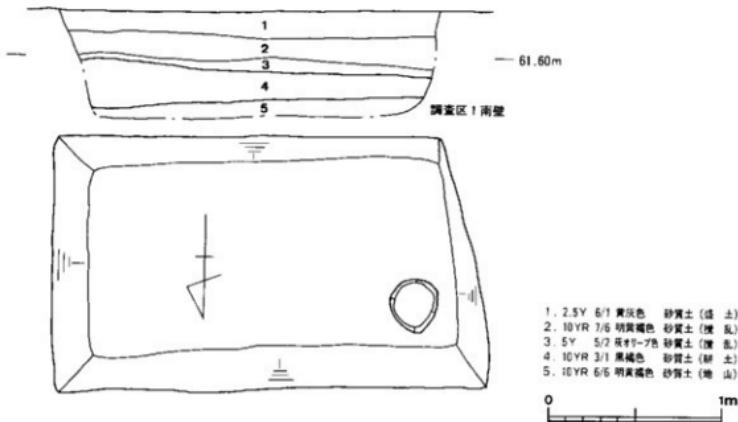
基本層序はI. 盛土・攢乱、II. 耕作土、III. 明黄褐色砂質土層を呈している。Iは耕作地から宅地へと変換した際の整地層及び攢乱層であり、層厚はおよそ30cm程度である。IIは近代の耕作上層で、層厚はおよそ15～20cm程度である。IIIは自然堆積の無遺物層の地山である。

調査区1の北西端において隅丸方形の土壤状の遺構を検出したが、既に削平されているものと思われ、深さは1cm程度のもので遺物は含まれていない。

本調査地点は近世から近代において耕作地へとする際に大幅な削平を受けている状況が読みとられ、包含層、遺物などは一切検出されなかった。



第14図 久保城跡95-3、-4区調査区位置図



第15図 久保城跡95-3区平面図・断面図

## 2. 95-4区の調査

本調査地は久保城跡のほぼ中央付近、熊取町役場から南東に約1.5kmの位置に所在する。申請地番は泉南郡熊取町大字久保1601-6番地、申請面積は100.06m<sup>2</sup>、現状は宅地である。調査は個人の専用住宅の新築工事に伴うもので、既存の建物の撤去の後工事に先だって申請地の中央西よりに1ヶ所（調査区1・2.0×1.5m）調査区を設定し、人力掘削により調査を実施した（第14図）。調査は95-3区と隣接するために同時に進行させ、期間は平成7年10月3日から5日までの3日間で実施した。

基本層序はI. 盛土・攢乱、II. 耕作土、III. 明黄褐色砂質上層を呈している。Iは耕作地から宅地へと変換した際の整地層及び攢乱層であり、層厚はおよそ30cm程度である。IIは近代の耕作土で、層厚はおよそ15~20cm程度である。IIIは自然の無遺物層の地山である。

近世から近代において耕作地化する際に大幅な削平を受けている状況が読みとられ、包含層・遺構・遺物などは一切検出されなかった。

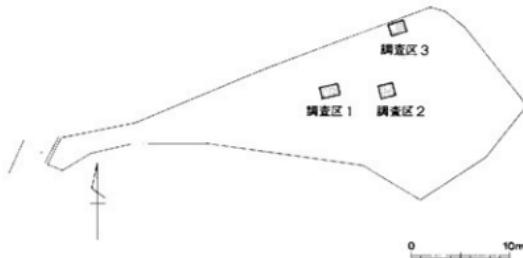
## 3. 95-5区の調査

本調査地は久保城跡範囲内の東より、見出川の左岸すぐそばに位置し熊取町役場から南東約1.5kmに所在する。申請地番は泉南郡熊取町大字久保1612番地、申請面積は71.96m<sup>2</sup>、現状は水田である。

調査は個人の専用住宅の新築工事に伴うもので、工事に先だって申請地の中央部に3ヶ所調査区（調査区1、2、3・1.5×1.5m）



第16図 久保城跡95-4区土層断面図

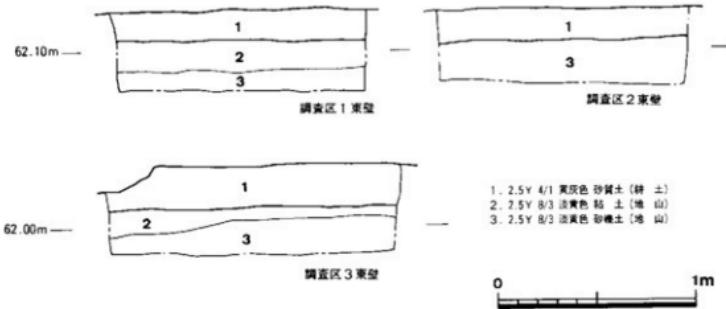


第17図 久保城跡95-5区調査区位置図

を設定し、人力掘削により調査を実施した（第17図）。調査期間は平成7年10月24日から25日の2日間で実施した。

基本層序は、I. 耕作土、II. 淡黄色粘土及び砂礫土層を呈している。Iは現在の耕作土で層厚はおよそ15~20cm程度である。IIは自然堆積の無遺物層で地山としてとらえた。調査区1、3では淡黄色の砂礫土の上に同色の粘質土層が存在するが、調査区2では既に削平されているのか存在しない。

本調査地点は近世から近代において耕作地化される際に削平された状況が窺える。なお一切の包含層・遺構・遺物は検出されなかった。



第18図 久保城跡95-5区土層断面図

#### 第4章 おわりに

以上前章で概要を述べたとおり、本年度（12月現在）は東円寺跡、降井家屋敷跡、久保城跡の3遺跡で計6件の国庫補助対象の発掘調査を実施した。成果として特筆出来る遺構・遺物は検出できなかったわけであり、発掘調査成果の未だあがっていない久保城跡においては今回も不明瞭のままとなった。本調査における埋蔵文化財調査は近隣の他市町と比べて未だ日が浅く、東円寺跡や一部の遺跡を除けば詳細の解らない遺跡ばかりであるといつても過言ではない。

今年度実施した東円寺跡の調査地点は、東円寺推定地（熊取町公民館前面）から95-1区が西に約100mの地点、95-3区が約350m離れた地点であった。両調査地点とも小字名より旧来水田であったと思われ今回の調査成果はある程度予測できるものであった。しかし既往の周辺地域の調査において12世紀から14世紀第を中心とした掘立柱建物柱建物や溝状遺構がまた、軒丸・平瓦、瓦器碗が多く出土しており、中世期には東円寺周辺の地においてかなりの開発が行われていることが解っている。しかし14世紀以降の遺物が全く出土せず、秀吉の根来寺遠征の際に東円寺が焼亡したと言われているが、15・16世紀代の遺構・遺物が全く出土していない状況を考えると遙かそれ以前、約200年前に既に焼絶していたとも考えられる。14世紀以降この地は耕作地化へと向かい現在まで至っていると思われるが、このときに大規模な削平が行われたと推測できる。東円寺の中心部が未だ把握できない今日はっきりしたことは言えないが、今後の調査・研究の課題となるだろう。

降井家屋敷跡の調査においても今回新たな成果を挙げることは出来なかった。宅地造成の際に大幅な削平が行われているようであるが、当遺跡では発掘調査件数も少なく中家と共に熊取町における近世代の中心地として栄えた当地の生活文化等を解明して行くためにも今後の調査に期待される。

久保城跡の調査についても今回新たな成果を挙げることは出来なかった。今回の調査地点を小字名で見てみると「的場」と言い、久保城に関連する施設あるいは設備等が存在したものと思われるが、それ

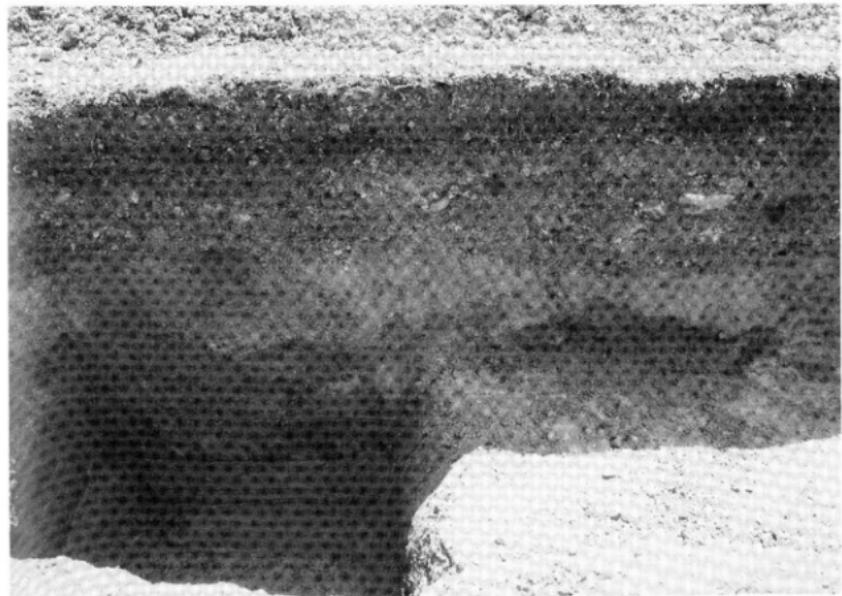
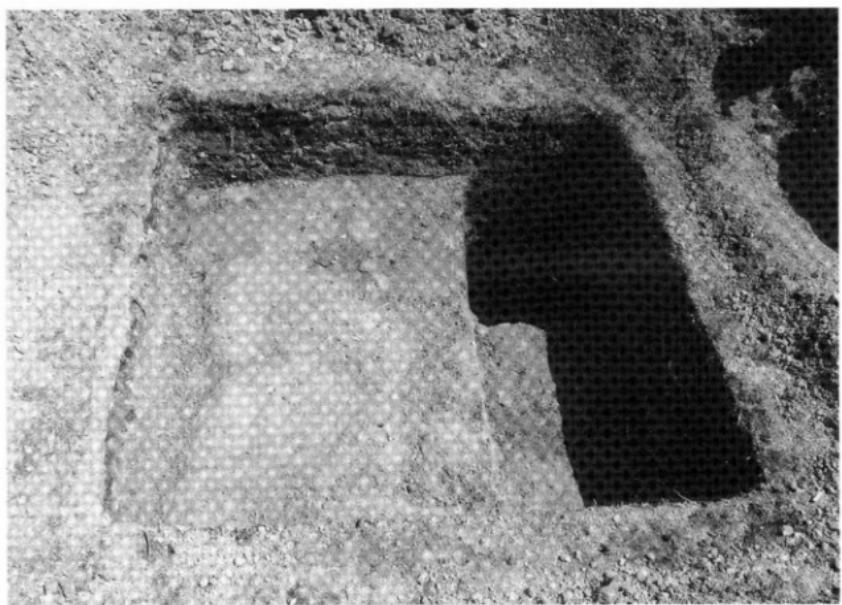
らしい遺構は一切検出することは出来なかった。近世・近代における耕作化の際に大幅な削平を受けたものと推測できる。しかし周辺地域での調査において瓦器碗を中心とした瓦質土器が多量に出土しており、中世期において当地周辺の開発はかなり進んでいたと思われ、中世城郭としての当遺跡の性格以外にも集落などの遺構が存在している可能性は高いと言え、今後の周辺地域の調査においても重要なものとなるだろう。

## 報告書主な記録

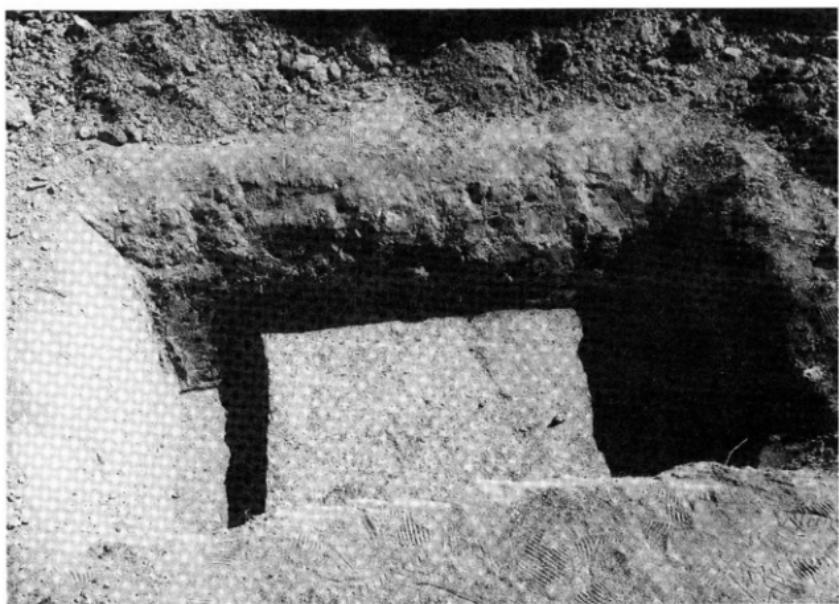
ふりがな	くまとりちょういせきぐんはくつちょうさかいようほうこくしょ							
書名	熊取町道跡群発掘調査概要報告書							
卷次	X							
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第26集							
編著者	永井 仁							
編集機関	熊取町教育委員会							
所在地	〒590-04 人吉府泉南郡熊取町大字野田1224番地 Tel0724-52-1001(代)							
発行年月日	平成 8年 3月 29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	事項
東円寺跡 95-1区	大分府泉南郡 熊取町大字 野田12382-5	6	34° 23' 41"	135° 21' 19"	19950419～ 19950420	4.5		
	95-3区	野田12155-5	34° 23' 55"	135° 21' 15"	19950821～ 19950822	3.75	個人住宅建設に	
降井家敷跡 95-1区	大分府泉南郡 熊取町大字 大久保1	25	34° 23' 55"	135° 20' 45"	19950728～ 19950728	5	伴う緊急事前発	
久保城跡 95-3区	大分府泉南郡 熊取町大字 久保1601-1他	27361	34° 23' 33"	135° 22' 23"	19951003～ 19951005	6	掘調査	
	95-4区	久保1601-6	34° 23' 33"	135° 22' 23"	19951003～ 19951005	3		
	95-5区	久保1612	34° 23' 32"	135° 22' 25"	19951024～ 19951025	6.25		
所 収 遺 跡	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
東円寺跡 95-1区	寺院跡	奈良～鎌倉	なし	なし				
			なし	なし				
降井家敷跡 95-1区	屋敷跡	室町～江戸	なし	なし				
久保城跡 95-3区	城郭跡	鎌倉	なし	なし				
			なし	なし				
	95-4区		なし	なし				
	95-5区		なし	なし				

# 図 版

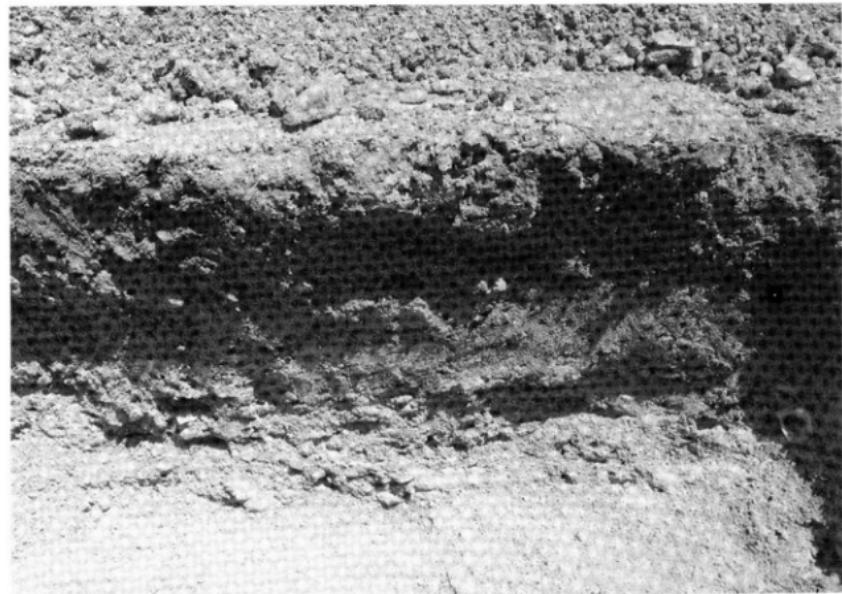
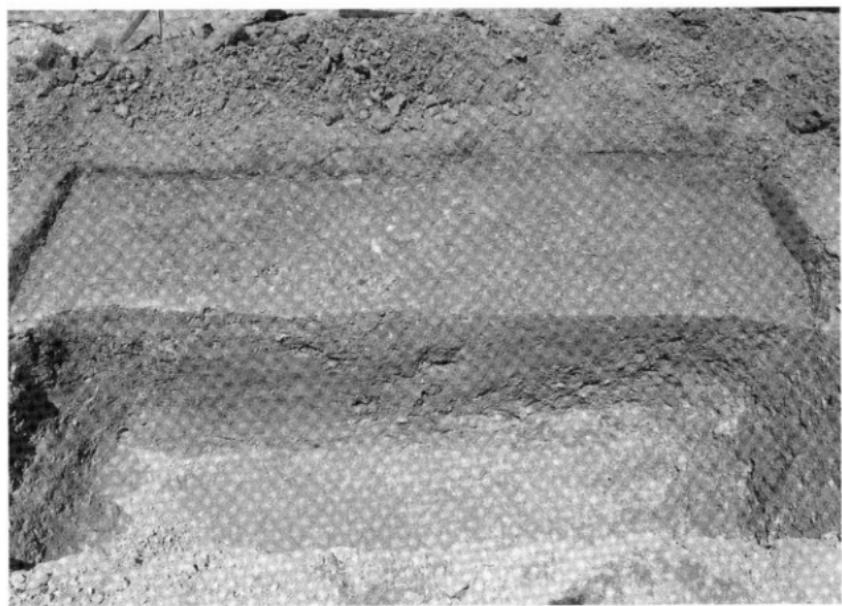
図版第1 東門寺跡95—1区



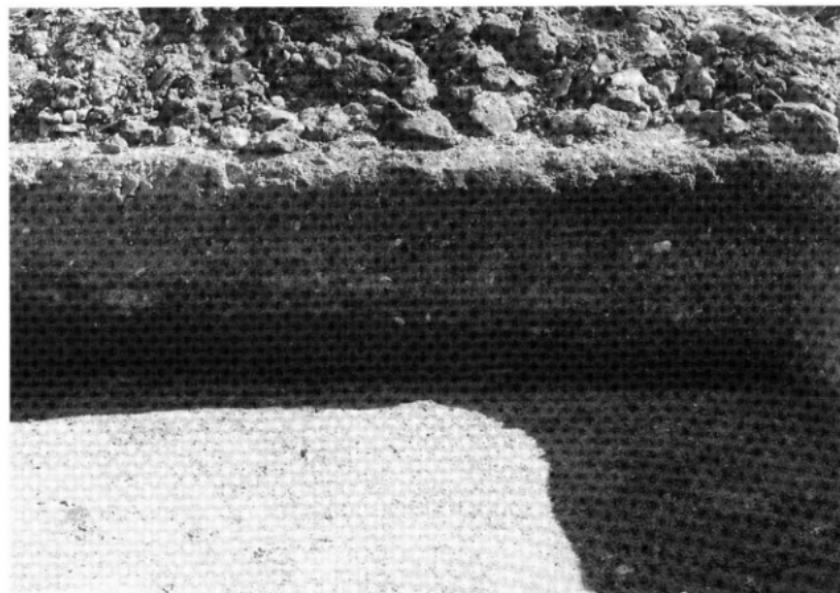
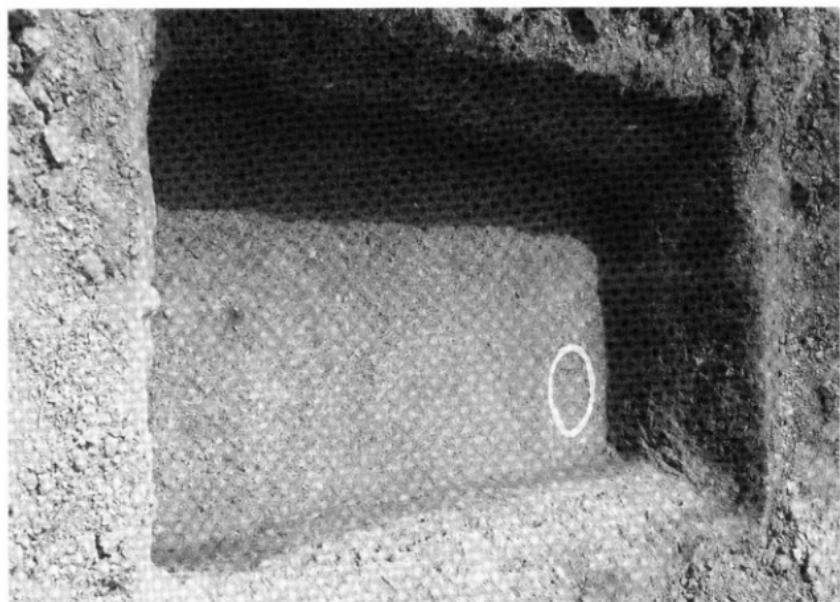
図版第2 東円寺跡95—3区



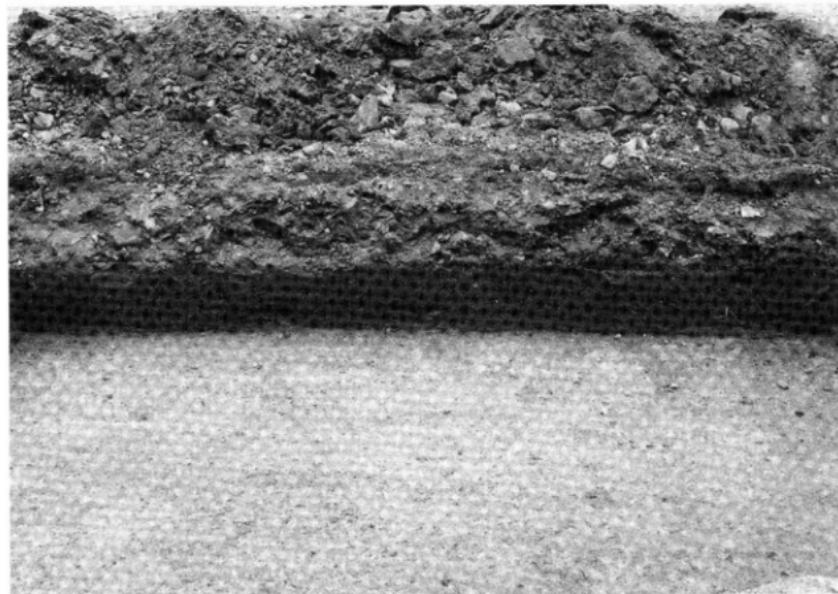
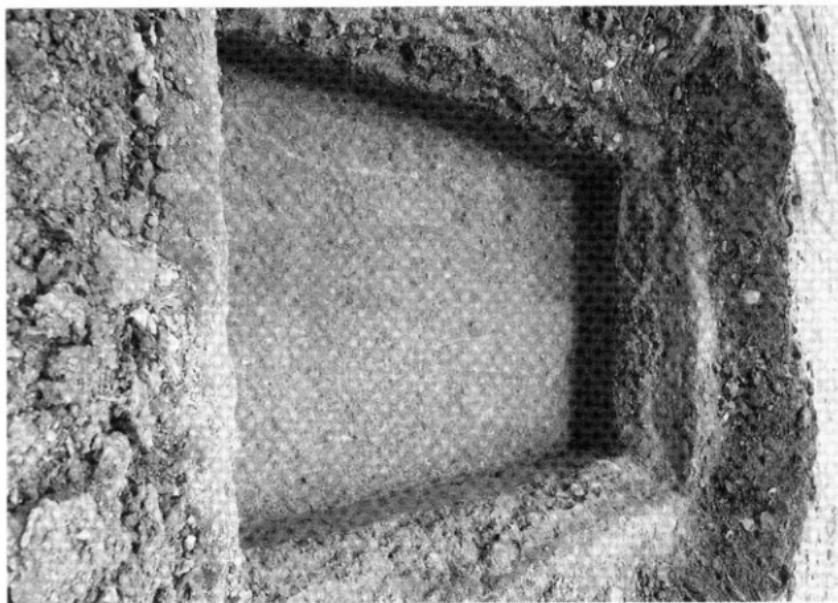
図版第3 降井家屋敷跡95—1区



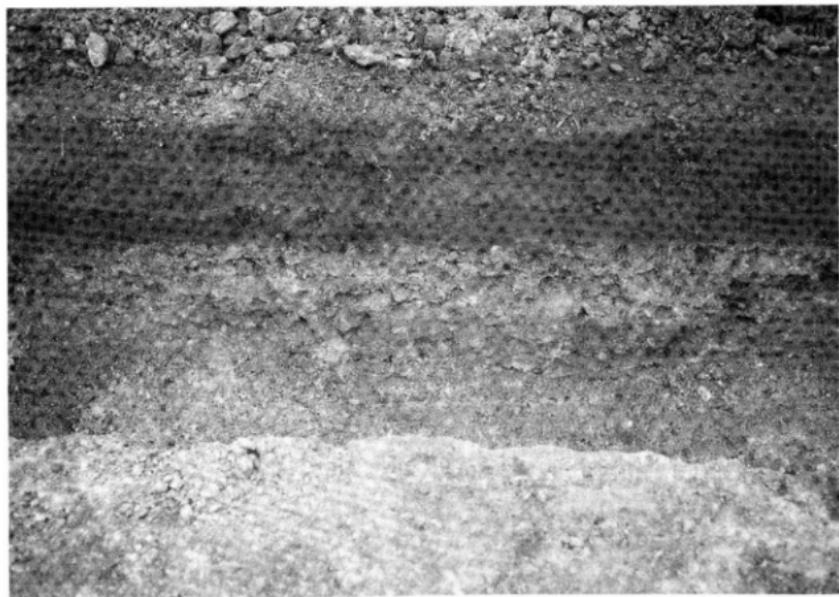
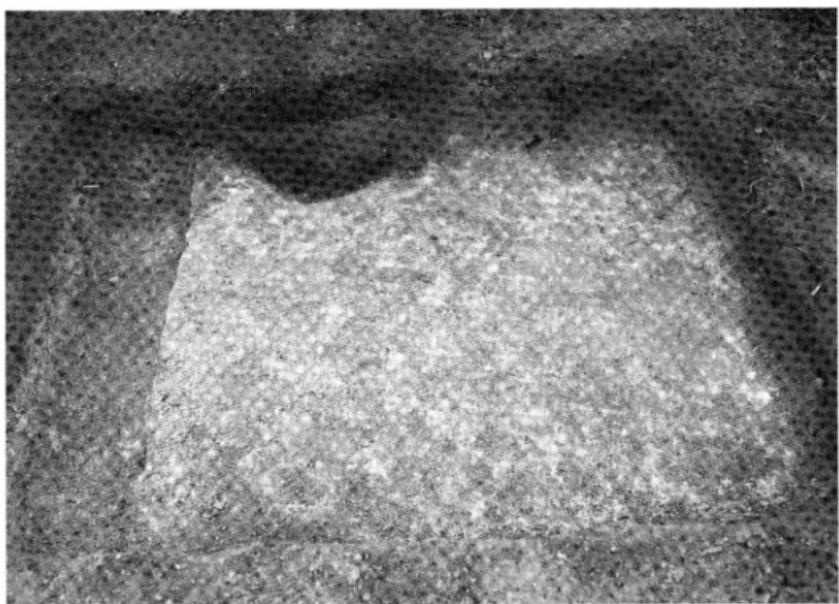
図版第4 久保城跡95—3区



図版第5 久保城跡95—4区



図版第6 久保城跡95—5区



熊取町埋蔵文化財調査報告第26集  
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・X  
平成8年3月 発行  
発行・編集 熊取町教育委員会  
貝塚市北町20-18  
抵河泉文庫